

平成31年度 学校自己評価システムシート (県立児玉白楊高等学校)

目指す学校像	地域の未来を担う心豊かな産業人の育成
--------	--------------------

重点目標	1 基礎学力の定着・向上 2 地域に根ざす開かれた学校づくりの推進 3 進路希望の実現と資格取得の推進 4 基本的生活習慣の確立と特別活動の充実
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	9名

年度		学校自己評価		年度評価(2月1日現在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況
1	基礎学力向上は、本校の喫緊の教育課題である。チャイム・トゥ・チャイム指導を徹底するとともに、授業だけでなく漢字大会や朝学習を通して学習規律を確立し、学習へ向かう態度を醸成する。 分ける授業を目指し、アクティブラーニングの手法を取り入れる等、「主体的・対話的で深い学び」の授業を実践し、生徒の学習意欲を高めることも必要である。 また、生徒の実態に合わせた指導を行い、欠点解消に向けた組織的指導を更に充実させることも必要である。	(1) 生徒の授業へ向かう意識を高揚させる。	①チャイム・トゥ・チャイム指導を行い、授業へ向かう姿勢を醸成する。 ②生徒の探究心や学習意欲を喚起し、学習課題の解決に主体的に取り組む姿勢を醸成する。	①教職員・生徒77名により、実施率90%以上できたか。 ②生徒77名により、授業に前向きに取り組む生徒が増えたか。また、成績不振者数を昨年度比10%減少させたか。	生徒の学習意欲の向上に取り組んだ。 ①チャイム・トゥ・チャイムの実施率は78.8%であった。昨年度とほぼ変わらない状況であった。 ②授業が分かりやすいとする生徒が82.6%、授業内容が合っているとする生徒が85.1%、提出物の状況が88.7%と8割を超え、学習に取り組む姿勢が醸成されている。成績不振者数は、1学期と2学期で2年が14%減少したものの、1、3年生は昨年並みであった。
		(2) 基礎学力の定着を図り、個に応じた学習支援を展開する。	①「校内漢字大会」(5・10月)を実施し、表彰する。「漢字検定」を2月に1・2年生全員に受験させる。 ②全学年で『朝学習』(10分間)を教員2人体制で指導し、基礎学力を向上させる。第1学年で4月・1月に、第2学年1月に基礎力診断テストを実施する。また、第3学年で一般常識サポートドリルを実施する。 ③朝学習教材を日頃の授業や定期考査と関連づけ、生徒が継続して学ぶ体制を整える。 ④成績不振者に対する個別指導を一層充実させ、欠点解消に向けた指導を保護者と共に行う。	①「校内漢字大会」の上位表彰者数及び漢字検定合格者数が増えたか。 ②生徒77名で、昨年度より学ぶ姿勢が身に付いたと答える生徒が増えたか。朝学習、基礎力診断テスト等により基礎学力が向上したと感じる生徒が増えたか。 ③朝学習と日頃の授業や定期考査と関連づけられたか。 ④各学期における欠点の解消率は、昨年度より向上したか。	生徒の学習に向かう姿勢の改善に取り組んだ。 ①校内漢字大会を5月、10月に実施した。1月31日に、2年生全員に漢字検定を受験させた。漢字大会への参加意欲は44.2%(+4.7%)に向上した。 ②朝学習に取り組む生徒は77.6%(前年度比+6.6%)、資格取得への意欲も59.6%(+3.7%)と上昇したが、定期考査への取組は前年とほぼ変わらなかった。 ③数学と英語で朝学習(マドリ)の内容を定期考査に取り入れ、反復学習できるようにし、基礎学力向上に努めた。 ④欠点解消率は1年生1学期25.5%(前年比+5.7%)、2学期26.8%(+5.2%)、2年生1学期70.2%(+27.6%)、2学期33.3%(+2.0%)、3年生1学期100%(+0.5%)、2学期95.5%(+60.5%)と、2年2学期を除き向上した。
2	創立120年を迎え、農業と工業を併設する伝統校として、本校の取組が地域に認知され、高い評価をいただけている。今後、本校の魅力をさらに積極的に発信し、地域からの理解を一層深め、地域に貢献する教育活動を継続・発展させる必要がある。 また、地域に根ざす職業高校として、地域の児童生徒とその保護者の興味関心を広げ、生涯教育充実のための核となることも重要である。 生徒募集では、地域の中学生在が急減していることを踏まえ、生徒の確保に向け、本校の「良さ」を積極的にPRする必要がある。	(1) 生徒の豊かな心を醸成するとともに社会性を育成する。	①地域交流事業(ハコ等を含む)を推進し、それを通して多くの生徒が地域に積極的に関わるよう働きかける。 ②小学生対象「親子でおもしろ体験講座」を開催し、本校の魅力や特色ある教育活動、専門技術等を広く理解していただく。 ③本庄児玉郡市の中学校へ対し、本校を紹介するチラシを常設しPRを図る。 ④本庄児玉郡市の中学校との連携強化の一環として、HPの相互リンクを行う。	①地域交流を年5回以上実施できたか。また、生徒アンケートにより、参加者数が増えたか、取組に対する自己評価が向上したか。 ②「親子でおもしろ体験講座」等、参加者数が増えたか。 ③④本庄児玉郡市の全中学校に対して実施できたか。	地域交流にも取り組み、地域の専門高校としての役割を担うことができた。 ①地域交流を年5回以上実施できた。保護者アンケートでは地域交流の評価が92.7%(+34.1%)と大幅に上がった。 ②親子でおもしろ体験講座を4講座実施し、38組の参加があった。「楽しかった」「とても楽しかった」と答えた参加者は37組(1組無答)であった。 ③学校だよりの他、各学科の紹介パネルを作り児玉郡市8中学校へ巡回展示した。 ④児玉郡市8中学校へのリンクをはったが、相互リンクは5校に留まった。
		(2) 情報発信を行い、地域との連携を図り、地域に根ざした教育活動を展開する。	①「学校だより」の発行や地域全域への回覧、HPの更新及び刷新を行う。 ②体験入学や学校説明会の充実を図り、対象学年(中学1年～3年)に応じた進路情報を提供する。 ③出前講座や中学校教員に対する情報提供を全教職員で実施し、特色ある農業・工業(4学科)の魅力を引き続きアピールする。 ④保護者・中学生を対象としたナイト入試相談会を実施する。	①学校だよりを15回以上発行し、地域の回覧板に配布を行えたか。また、HPの更新を行い、閲覧数が増加(4/1現在:618860アクセス)したか。 ②③中学校訪問を4回、体験入学を2回、学校説明会を2回実施したか。 ④ナイト入試相談会を2回実施したか。	積極的に取組を情報発信し、PRに努めた。 ①学校だよりを12号発行(1/31現在)、地域8千世帯に回覧した。また、HPの閲覧数は1,062,427アクセス(2/3現在)で、4月当初から443,567(71.7%)増加した。 ②計画通り中学校訪問を4回、体験入学を2回、学校説明会を2回実施した。 ④ナイト入試相談会を2回実施した。
3	1年次からの計画的な進路指導が高い進路実現に結びついている。目指す学校像である「地域の未来を担う心豊かな産業人の育成」を目指すことが重要である。そのために、生徒一人一人のニーズに合った進路情報の提供やインターンシップの新規事業所開拓が必要である。 また、資格取得のために、教科との連携を密にしたり、補習指導を更に充実させ、より高度な資格取得を目指す必要がある。さらにその専門性を活かすことができる就職先を確保することも必要である。	(1) 進路意識の向上を目指し、進路指導を充実させる。	①学年に応じた確に指導・支援を行うため、生徒のニーズに合わせた進路ガイダンスや講演会を充実し、的確な進路情報を提供する。 ②インターンシップ先を開拓するとともに、就職希望者によるインターンシップ及び会社見学、進学希望者による学校見学を積極的に勧める。 ③事業所との連携を強化し、生徒に合った進路先とマッチングさせる。 ④進学希望者に対し、講座を開講し、進学をサポートする。	①生徒アンケートにより、80%以上の生徒に、必要な進路情報が提供されたか。 ②生徒一人ひとりのニーズに基づき、インターンシップ・会社見学及びオープンキャンパス・学校説明会に2・3年生が参加できたか。 ③就職希望者の内定率が100%であったか。 ④進学希望者に対し、進学向け講座を開講し、希望進路を実現できたか。また合格後のサポートを充実させることができたか。	個に応じた進路指導を展開することができた。 ①89.9%の生徒が、個に応じた進路指導が行われていると答えており、進路指導に満足している。 ②③2年88名がインターンシップを行い、就労感の醸成に取り組むことができた。また、延べ数で会社見学先106社201名で、幹旋就職内定率100%を達成した。進学では、体験入学や学校説明会に参加し、大学3名、専門学校44名の合格で、100%を達成した。 ④進学希望者については個々に対応し、必要な指導を行った。
		(2) 進路実現を達成させるため、資格取得を推進する。	①専門性の高い難関資格試験取得に向けた指導の充実を図る。また、普通教科(基礎学力)に関する資格取得を奨励する。 ②卒業までに高校生専門資格等取得表彰を目指す。	①資格取得の受験率及び合格率が全ての学科で向上したか。普通教科(基礎学力)に関する資格取得を奨励できたか。 ②高校生専門資格等取得表彰(知事表彰)が、生徒数(3年生)の10%に達したか。また、ジェンマイスター顕彰及びブライスター顕彰が生徒数(3年生)の3%に達したか。	生徒の専門技術の向上に取り組む、資格取得を奨励することができた。 ①15名が国家資格(普通旋盤、機械検査、電子機器組立、電気工事士)を取得した。33種の資格検定の受験者は延べ1,023名で461名(2/3現在)が合格した。(取得率45.1%:前年比-8.94%) ②知事表彰34名(3年生生徒24,8%,前年度比+5.5%)、ジェンマイスター顕彰4名(工業科生徒比5.9%、前年度比+2名)であり、目標を達成した。
4	基本的生活習慣は、朝学習と連動した全校挙げた遅刻指導等により改善の兆しが見える。引き続き粘り強く指導していくことが重要である。また、挨拶指導や整容指導も継続し、社会性の醸成に向けた体制を徹底する。 さらには、生徒の学校満足度を向上させ、問題行動や中途退学者を減少させる必要がある。	(1) 基本的生活習慣の確立を目指し、きめ細かな生活指導を継続的に実施する。	①『朝学習』と連動させた全校での遅刻指導により、基本的生活習慣を確立し、授業や学校生活にしっかりと取り組ませる。 ②校門に職員が立ち、あいさつ運動を行い、遅刻ゼロ、挨拶の励行を推進する。また、整容指導の重点指導期間を設ける。 ③保護者と連携し、挨拶の励行や整容指導を行う。 ④多様な生徒の心のサインを読み取り、問題行動を防止する。	①遅刻者数を昨年度比1割減少させることができたか。 ②③自主的に挨拶する生徒が増えたか。服装・頭髪で指導を受ける生徒が減少したか。 ④問題行動件数を昨年度比2割減少させることができたか。	基本的生活習慣の確立に学校を挙げて取り組んだ。 ①②遅刻者数が前年より1割増加した。整容指導に取り組む、服装等を注意される生徒はほとんどいなくなった。スマートフォン等は、授業中に使用する生徒はいなくなった。 ③朝の立哨指導等と行い、挨拶の励行に取り組んだ結果、挨拶をよくするようになった。 ④問題行動数は、延べ人数13名(前年度-6名)、件数9件(-2)で、2割減であった。また、特別に支援が必要な生徒について専門家のアドバイスを頂き、対応できた。
		(2) 特別活動を活性化させ、生徒の自己有用感や達成感を喚起する。	①生徒会を中心として、学校行事の内容を見直し、改善を図り、満足度の高いものにする。また、部活動の活性化を図る。 ②小中学校と連携を図り、地域の異校種間交流を推進する。	①生徒アンケートにより、学校行事に対する満足度が向上したか。文化祭等の来場者数が増加したか。また、部活動加入率がアップしたか。 ②地元の小中学校と連携し、交流活動を行うことができたか。	①行事が活発であると答えた生徒が80.2%(前年度比+2.3%)、生徒会活動が活発であると答えた生徒が66.8%(+4.5%)であり、満足度が向上した。部活動参加率は91.5%(1/2現在、前年度比+2.1%)で微増であった。 ②小中学校との連携では、農作業体験やおもしろ体験講座で、中学校との連携では体験入学で本校の実習を体験してもらうことができた。

学校関係者評価	
実施日	令和2年2月7日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上や資格取得は、いわば当たり前のことである。その当たり前のことをいかに生徒に指導していくかが肝になる。 エアコンが昨年の夏に設置され、学習環境が以前より良くなったと思う。トイレ等の改修も懸案事項であるが、学校として引き続き学習環境の整備・充実に努めて頂きたい。 朝学習は基礎基本を学ぶのに役立っている。学校として重要な取組であると考えている。 個別指導は大変重要なことであるが、時間をどのように設定するか難しい。計画的に進めることが課題である。 遅刻防止もそうであるが、生徒会が中心となりルール等を決めて、生徒が自主的に取り組むようになると良い。教員から見れば、生徒ができないのであれば決まらずに罰則ということになる。生徒からすればそれは嫌なことであると思うので、生徒が自分たちで行動することが必要である。 	
<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の間では、児玉高校と統合後の学校像が見えてこないと言われている。情報提供が必要ではないか。 児玉白楊高校は、何をどのように学べるかをしっかりと発信してくれている。中学校側としても分かりやすい。 地域交流は、地域にとっても生徒にとっても効果が期待できる。実際に計画し行う学校側としては大変なことと思うが、引き続き取り組んで頂きたい。 	
<ul style="list-style-type: none"> 就職希望者の内定について、結果的には100%を達成したが、途中難しいケースもあった。次年度は基本的生活習慣や基礎学力の向上、社会性の醸成にさらに力を入れる必要がある。 2年次のインターンシップを通して引き続き次年度も就労感の醸成に取り組む。 生徒のニーズが多様化していることから、生徒一人一人の希望に合った進路指導を展開する。 検定や資格を取得率を向上させるには、それらを取得する意義や利点を生徒に理解させる必要がある。卒業後の進路実現に結び付けながら引き続き検定や資格の取得を励行する。 	
<ul style="list-style-type: none"> 社会に出れば基本的生活習慣が身につけているのは当たり前のことである。遅刻防止等、在学中にどのように効果的に指導するかが肝である。 時間を守ることや服装等、基本的生活習慣の確立に向けて取り組んでいることがよくわかる。中高での連携を進めていけばよいと考えている。 遅刻は家庭の問題でもある。家庭とよく連携を図ることも大事である。 人としての徳、すなわち道徳心の向上についての取組も必要である。 遅刻指導、整容指導に力を入れれば、自然と問題行動等は減るものだ。いろいろなことを指導するのではなく、絞って指導するのの一つの方法である。 部活動は、高校生活では重要な要素である。特に、児玉高校との統合後のことも考えつつ、部活動環境を整えることが学校として必要である。 	